

令和4年度シラバス

言語聴覚士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動障害性構音障害 I (基礎)		講義	今井 絵美子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
運動障害性構音障害について、定義、障害構造、原因疾患とタイプごとの病態特徴について学習する。さらに運動障害性構音障害の評価を学び、検査の意義、施行方法を知るとともに、記録方法および運動障害性構音障害のタイプ・重症度診断の流れについて学ぶ。治療方法についてはアプローチの基本を学び、訓練手技の鑑別ができるようになることを目指す。				
授業の到達目標				
運動障害性構音障害のタイプと病態特徴について説明できるようになる。 運動障害性構音障害を評価する検査を施行できるようになる。 検査結果より運動障害性構音障害のタイプを診断できるようになる。 病態特徴に合わせた訓練手技を選ぶことができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	運動障害性構音障害の定義、障害構造			
2	発症の原因と運動機能障害			
3	タイプ分類と病態特徴①			
4	タイプ分類と病態特徴②			
5	検査法 (AMSD) ①			
6	検査法 (AMSD) ②			
7	検査法 (SLTA-ST) ①			
8	検査法 (SLTA-ST) ②			
9	評価と解釈①			
10	評価と解釈②			
11	発話訓練の基本			
12	発話訓練の具体的な方法			
13	発話訓練のプランニング			
14	症例検討①			
15	症例検討②			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート	20%	構音記録と評価、検査結果のまとめ等		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版	藤田郁代 監修		医学書院	
ディサースリア臨床標準テキスト	西尾正輝		医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
脳卒中後の構音障害への徒手的アプローチ	樋口直樹		三恵社	
言語聴覚療法シリーズ9 改訂 運動障害性構音障害	熊倉勇美		建帛社	
自由記載				
備考				